

今北野城の興廃を記載するに当たり、美作守保重及びその後の城主の在城年間と、その年代を示せば次の通りである。

- 鷲見美作守保重又直重・直頼云 文明 10 年～永正 7 年 (1478～1510) 33 年間
- 鷲見美作守保定 永正 8 年～永正 14 年 (1511～1517) 7 年間
- 鷲見美作守直保 又光實云 永正 15 年～天文 16 年 (1518～1547) 30 年間
- 鷲見新藤治忠直 又範綱云 天文 20 年～弘治 2 年 (1551～1556) 6 年間

鷲見美作守保重は郡上郡鷲見城主中務少輔行保の子にして、文明 (1469～1487) の頃土岐成頼 (11 代当主) の武将として、各所に転戦し戦功を積み山県郡北野その他に於いて所領を得る。北野には五百貫あったと伝わる。元来郡上郡鷲見郷は土地が辺りな場所で、美濃中央の勢力に加わるには不便であるので、当時鷲見郷を出て北野に居城を構えたのである。

其の後長享年中 (1487～1489) に尾張国葉栗郡小熊 (岐阜県羽島郡小熊村) にも所領を得ている。葉栗見聞集に記録がある。

尾州小熊の保中飛鳥井亞相の領所去る康正二丙午年 (1456) 建仁寺祥雲院号売寄進の御布其後長享年中鷲見美作守自祥雲院右者買得刻以吹拳状常德院殿御判令領戴及其時御下知厳重之事候然者当方領分は勿論之処飛鳥井殿立却て違乱之儀候哉無覚東候子細之義鷲見可任旨得其意勢州申進候当御代並御下知等申沙汰可然候 恐惶謹言

六月十二日

政房  
遠藤丹後守殿



土岐成頼画像

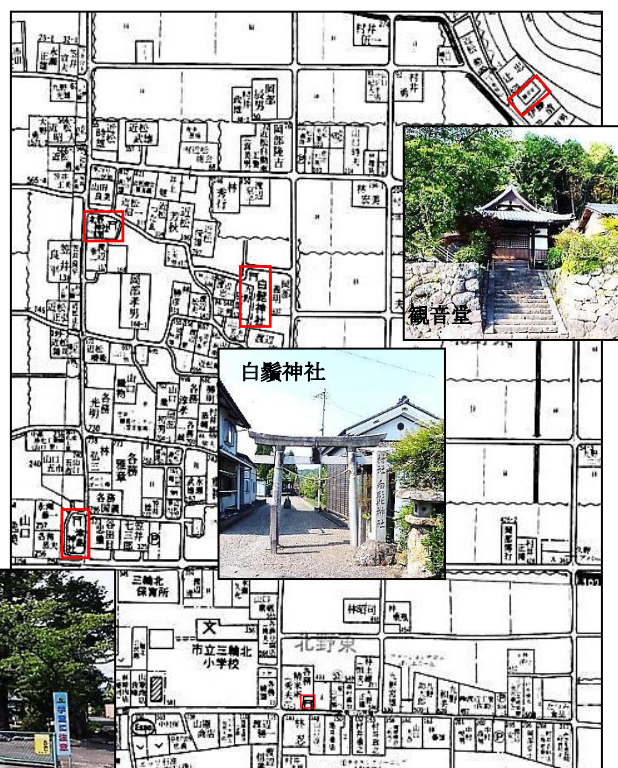


小熊村 (おぐまむら) 尾張国葉栗郡小熊村  
(現在：岐阜県羽島郡小熊町)

小熊村はかつて尾張国で、その後美濃国となり岐阜県羽島郡に存在した村である。北は境川、西は長良川、南は逆川に挟まれた輪中地帯である。



津島神社



北野城の四隅の祭神 (観音堂は現在北東に在る)



次の文書に徴するに**鷲見美作守保重**は**明応の乱**「明応2年(1493)」に於いて初め**土岐成頼**に加担し其の所領を山県郡高富に得る。

当方儀別而加担の由候間於当国山県郡百貫之地進之猶山田修理可申者也仍如件

明応三年(1494) 寅三月十二日

土岐左京権太夫

成頼 書判

明応4年(1495)、5年(1496)に於ける二度の**船田合戦**は、美濃中世に於ける大乱である。此の乱に際して美作守は、文明(1469~1487)以来成頼の手厚く待遇され、初め之に加担していたが、しかし**土岐政房**は正当な嗣子だけど、「**船田の前乱**」には遂に付き従うことを決めかねて、出陣する事は無かった。然るに明応4年(1495)7月**石丸利光**は船田で敗れ、9月5日成頼は職を政房に譲ったので、ここに土岐家擁護の義理明白となり、美作守は弟**新左衛門**以下を備えて、政房の武将として明応5年(1496)5月茜部に出陣し、次に鶴山に到り、城田寺攻撃軍に加わる。**5月20日鷲見新左衛門は打越山で戦死**するが、翌6月城田寺城は遂に陥落して**石丸利光**は亡びる。成頼は無事政房に迎えられて加納城に入り、ここに「**船田の後乱**」は終わる。**新左衛門**の法名を「**宗泉居士**」と云い、墓碑は大智寺に在る。明応8年(1499)の頃、美作守は病をしているのか、当時の状況を知る文書がある。



土岐成頼の墓(岐阜市:瑞龍寺)

御書委細拝見仕候仍私歛楽斗御懇蒙仰候忝畏入存候法眼御薬色々申請たへ候て養生仕候間得滅候乍恐御心安可被思召候就中汾陽寺御引得岩村郷内若宮修理田事に付従汾陽寺之御状並売券之案文式通被下候心得申候禰宜を召寄相尋可申上候○以不可有如在候儀候以此旨可得御意候 恐惶謹言

明応八年(1499) 七月十日

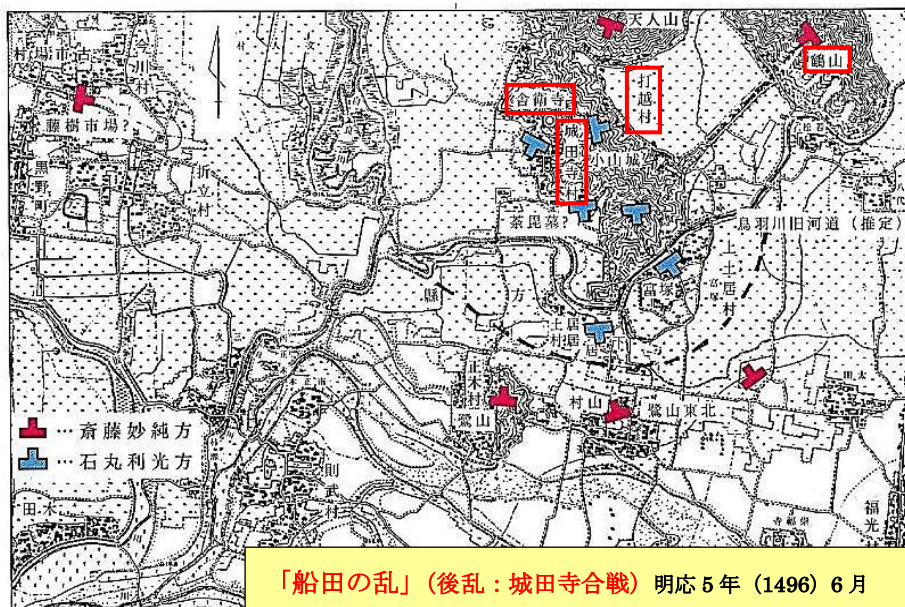
鷲見美作守直重 書判

弾正殿参

人々御中貴報



鷲見新左衛門保忠の墓  
(大智寺裏山に在る)



合衛寺「城田寺館」(土岐成頼隠居)

其の後十数年を過ぎて永正 7 年 (1510) に至り、美作守は**斉藤利良**と不和になり 8 月 18 日に**斉藤勢**が急に北野を攻めて、陣口の合戦となり、この時**保重**は**大智寺山下**で**自決**する。

今此の戦争状況を考察するに、船田の乱後**斉藤利国**、**利親**は近江で戦死し、**利親**の子**利良**が跡継ぎであるが、幼少であるので伯父**利安**が支える。**利良**が成長するに従い、野心を思う様に振る舞い、守護**土岐政房**を乗り越えようとして、先ず其の第一矢は北野に向けられた。即ち美作守は文明 12 年 (1480) **利良**の父**利親**を敵として戦い、船田の乱には**政房**を助け、常に**土岐家**の擁護を任され、**斉藤氏**の意見を聞かなかったので、**利良**は事を構えて急に北野城を攻め落とす。**保重**は美作守**直重**又は**直頼**とも云う。笠井系図時廣の條に曰く

### 濃州北野城主鷲見美作守直頼公御近習勤直頼公同所陣口之合戦時廣討死

陣口の合戦は永正 7 年 (1510) 8 月 18 日に起こる。**保重**は少数では多数にかなわない事を知るが、しかも自分の居城を去るには忍びなく、かつ部下の勧め止め難く、言い換えれば妻子は松影方 (妻の家) へ逃れさせ、自己及び決死の小勢を以って**斉藤氏**と一戦する。

面積：1 町=10 反 暁九つ半=午前 0：00～1：00 頃

次に北野戦場記の一節を記載する。

1 反=300 坪 昼九つ半=午後 1：00～2：00 頃

永正 7 年 (1510) 庚午 8 月鷲見殿は北野の城に帰城して、老臣共を呼び集めて色々のご相談される。此の作州殿は元来、武略 (軍事の駆け引きの) 人故、落ち行く心は無い。先に妻子は民家に預け、家中の老若は御領分村々へ預け、或いは山奥へ送り、其の上城中の諸道具、戸障子、畳等迄、望み次第に分け取らせ、金銀米を名主 (庄屋) に引き渡し、預け人に応じて割けて渡し (配分) 誠の明城にして、**斉藤**の軍勢が来れば直ちに腹切らんと相待つ時に、若者共申しけるは、此のまま自害せんとする事残念也。一戦してご主人のお供の仕度の事申し述べる。誠に哀れの次第である。時に美作守殿が仰せられるには、其れをより一層に望むならば一軍 (一戦) しなさい。

此の城は地方 (城の土地) 悪ければ、ここを捨て大智寺山に引き籠もり、其れより三輪口に陣取り、敵を引請けて戦う事。先ず北野の前は 30 町 (300 反) に 50 町 (500 反) の広き田畑なり、東は林山が茂って人数の多少は知れず、仕掛けによろしくて大智寺門より三輪山迄、大旗 (大旗)、指物 (小旗) を挙げて陣を取りける。三輪口に白地の幕一町 (約 109m) ばかり張り、此れは味方の小勢を隠す手立てなり、其の日の九つ半 (午前 1 時) 頃に早、**斉藤勢**は五百騎ばかりで押し寄せる。岩村山より見れば三輪口に軍勢見える故、ときをつくり真一文字に広き畑中へ二手に成って押し寄せる。作州は三輪口より 1 丁ばかり押し出し、村井三郎左衛門、近松兄弟等一番に進み、両陣互いに抜き合い半時ほど戦うが、追々槍弓大刀を頻りに打つ。**斉藤勢**は広い所なので負傷が多く、特に二手になり小勢になった後は、一手になって矢先が多くなり難しくなった。

齊藤方より先ず退けと指示があり、両陣は互いに引き分ける。此の二回計り事の戦いに齊藤方は負傷・討死 130 人ばかりで 11 人は召し取る。作州方にも負傷 6 人である。歩いている途中で日が暮れて岩村山まで退き、齊藤勢が申すには「今日の合戦は広い所に味方は少勢で難しかった。本陣へ加勢まで明日の早朝に三輪口へ、押し寄せて戦うのだが、其の後は岩村山に大きな篝火を焚き休息をするなり、三輪口も篝火を焚いて、難を受けるのを用心する也」作州初め侍衆も大智寺へ行って、宿陣する時に作州が申すには「此の方は小勢なれども今日の戦いは充分の利があり、敵方は五百騎を数えると見えるが、明日は十倍にするだろう。所詮、叶わぬ軍であるので今晚私は、切腹するので各々が勝手次第に戦場から遠くへ逃げなさい」と申されるが家中の銘々が何所迄もお供仕えると落ち行く人は一人もいない。然らば名残に酒宴を初め、其の後腹切るべしと夜の更ける迄酒宴がある。作州殿は当寺の和尚にも厚くお世話のお礼あって申されるが「当寺にて席をけがすは後日の難義であるので東の林に入り心よく自害致すべし」と云う事で寺より一町(約 109m)ばかり東の山に入り切腹を致される。忠臣義士の御近習(則近)侍 13 人迄追い腹を切って死ぬ。方丈(禪寺の住職)才智(才能と知恵)人なので直ちに、お吊いをして其の所に埋め、寺中の僧たち寄り合い、墓に青い苔を植えて薪を積み隠す。

「作州法名天游元光居士」今に伝えて、大智寺に御縁儀(大法要)ある。13 人の勇士も塚が有り、残りし人々は大智寺の裏山より跡部、大矢田辺は御領分なので武儀郡より郡上の方へ落ちいける。その夜の明け方に齊藤勢千余騎数えるが三輪口に押し寄せて見れば、旗ばかりにて、人は一人もいない、さては夜の内に落ち行ったのか、所々へ手分けして尋ねたけれども、出会った者は一人もいない。ようやく日暮れに大智寺へ来て和尚に直面して尋ねてみれば、和尚を仰ぐには「此の程世間がやかましいので門を閉めて出入りをしないので一向に様子は知らない」と申されたが、心元なく思つて寺内をことごとく尋ね探せども見出すことが出来なく、やむを得ず総勢は立ち去る。残らず落ちぶれていったと報告すれば、討つ手の人々は大変な不成功であった。然しながら智勇に勝れし作州なので齊藤もたいして吟味せず、ほったらかしにする。元来鷲見殿の姓は藤原氏で郡上に住居する。今に郡上には「鷲見村」と云う所が有り、三輪の西入口を今に「陣口」と云う。岩村山の東を此の時より「勢引山」と言われている。美作守保重の墓碑は五輪塔にして、天游元光居士永正 7 年 8 月 18 日の銘あり、明治 36 年承天老師が別に大智寺殿前作州太守天游元光大居士及び殉死 13 士の碑を建てる。

大智寺



林田新五右衛門重治	瀧口兵太夫元之	牧田権十郎定賢
金谷半之丞利政	長谷部藤左衛門守行	岡野源五右衛門政周
小倉定之進久眼	戸倉孫七郎高通	原田一見一唯
松根源太兵衛久保	青木三郎左衛門宗倫	
宮崎軍治兵衛氏久	久津見伊藤太義方	

雲黄山：大智寺(岐阜市山県北野字北沖 668-1) 臨濟宗妙心寺派 創建は不詳ですが鎌倉時代に開かれ、当時は雲黄山と号した天台宗の寺院だったと伝えられている。戦国時代に兵火により被害を受け衰退するが、明応 9 年(1500) 3 月 19 日北野城主鷲見美作守保重が玉浦宗眠和尚(岐阜瑞龍寺)を招いて再興。堂宇を再建すると本宗に改め、鷲見家の菩提寺とする。



古墳墓（大智寺裏山） 鷲見美作守保重他重臣 13名の墓



鷲見美作守保重の墓

永正 7 年（1510）此の場で自決

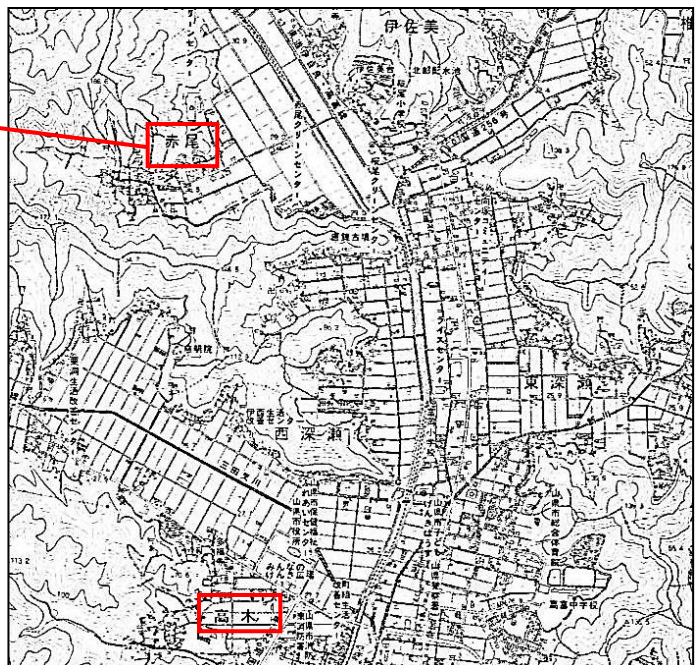
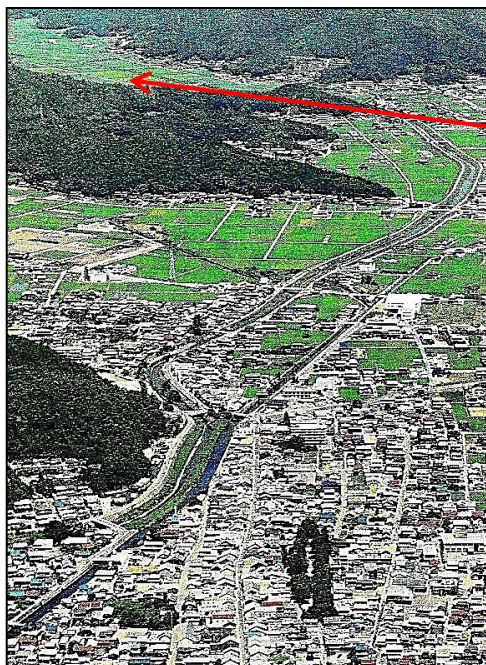
此の北野落城は土岐家の勢力削減になれば、土岐政房は其の後、保重の子保定を再び北野城に入らせ、美作守と称する。然るに斎藤利良の勢力は益々加わり、遂に土岐政頼（頼武）を助けて政房、頼芸を除かんとし、永正 14 年（1517）12 月に合戦をして、大勝利を得るに至る。宜胤卿記に曰く

永正十五年（1518）一月五日晴晚陰小雨松殿宰相来今日下濃州次四條宰相と下濃州云々去年十二月於美濃土岐與斎藤新四郎[利良]合戦土岐負及大破之間就知行事所下向也

永正十五年（1518）八月十三日晴

勳黄長来四條宰相来談云濃州去十日敗北斎藤新四郎伴土岐子引越前堺土岐父残云々

美作守保定は、此の時土岐政房方として出陣するが、不幸にして山県郡赤尾で戦死する。墓碑に前作州太守宝苑瑞玉禅定門、永正 14 年（1517）12 月 27 日との銘がある。ちなみに、此の墓は五輪塔にして初め赤尾村観音堂の南に在ったが、明治 42 年富岡村高木の鷲見久太郎が其の銘石を自己の宅地に、移して墓碑の台石を新しくして台石の文字は、事実と全く相違する。後日の為に付記する。



然るに翌年「永正15年(1518)」8月、土岐政房は大勝利をし、齊藤利良・土岐政頼(頼武)は共に越前に逃げたので、政房は鷲見保重の二男の鷲見直保を北野城に入らせて、直保を美作守と称し、土岐政房及び頼芸に歴任して天文16年(1547)迄30年間北野に在城する。

鷲見保定と直保の母は松野殿と云って松影氏の出身である。永正の争乱(1510及び1517)に夫君及び其の長子を失い、領地の高富村に退隠(暇な身分になる)する。直保はつまり母の為に一寺を建立し廣厳庵と云う。母は享禄元年(1528)2月末日に死亡する。法名廣厳院殿松岳理貞大姉の墓碑及び画像は同村廣厳寺に在る。



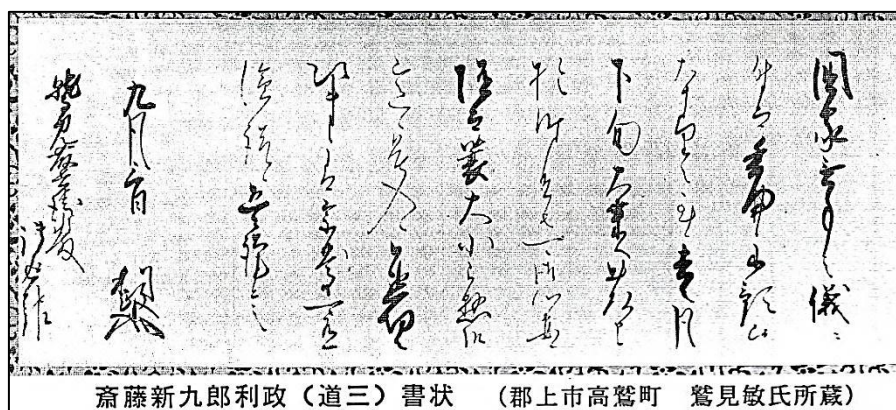
廣厳寺表門と鷲見保重令室(松野)「廣厳院松岳理貞大姉」の墓

齊藤道三(西村勘九郎・長井新九郎・齊藤秀龍大学)

之より先、西村勘九郎(齊藤道三)は土岐頼芸のお気に入りを得て、次第に勢力を加え、大永7年(1527)8月20日守護土岐政頼を攻めて越前に走らしめ、頼芸守護職と成る。享禄3年(1530)正月勘九郎は、其の主齊藤利安を殺して自ら稲葉城主となるが、天文7年(1538)9月守護代齊藤利良が死亡するに及び、更に土岐頼芸をも除かんと企む。時に頼芸は大桑城に居って、示し合わせ大桑の左翼(急進派)なる北野城も修築の必要が起こる。

鷲見直保(直康)は武将の笠井直時に土木工事を施工させ、天文7年(1538)2月に其の工事が完成し城の要害(要塞)を増加させる。笠井系図直時の條に曰く

初仕土岐頼芸公後仕北野城主鷲見美作守直康公或時直康公曰此城有濠無水誰可得此水哉直時進出得水何難申上直康公御下知有而被申付此役勤普請役為御城之要害從官上堀通堰水無恙普請成就直康公有御覽水漫々恰蒼海御喜不斜天文七戊戌(1538)年春二月十五日於御殿賜諱直之一字及陣笠云々



齋藤新九郎利政(道三)書状(郡上市高鷲町 鷲見敏氏所蔵)

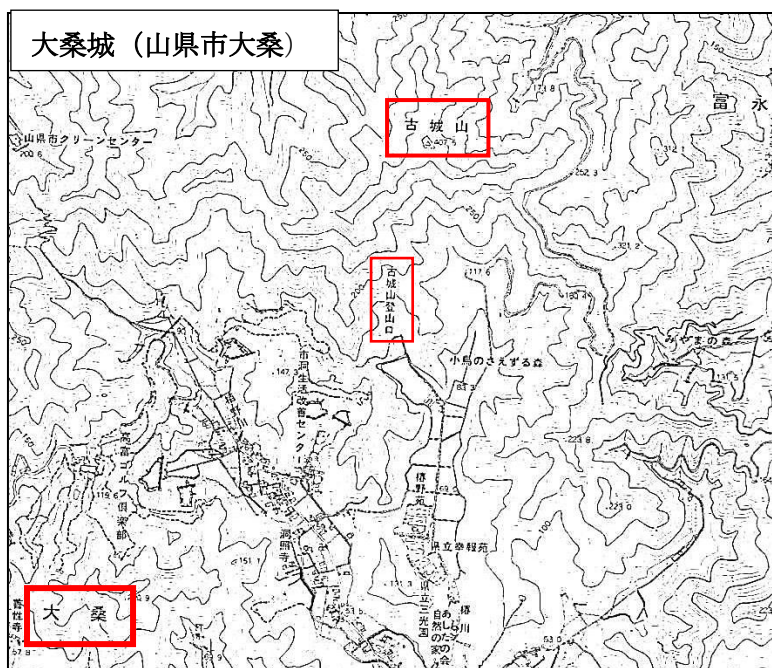
「国家無事の儀について、詳しくご提案いただきありがとうございます。2月前の下旬にわたしも大桑に出頭しました。」署名は利政で入道する直前まで道三が使用していた実名である。利政が齊藤姓を名乗っていた事が解る天文9年頃(1540)現存最古の史料である。鷲見藤兵衛尉(保光の二男次定)宛の書状である。

其の後、10年成らずしていよいよ土岐氏滅亡の時が来る。

時は天文16年(1547)11月22日、**齊藤秀龍**大学(齊藤道三)は、急に大桑城に迫る。

**鷲見美作守直保**は一族を連れ添って同城に到る。土岐頼芸の為に奮戦したが、翌23日遂に**戦死**する。頼芸も同夜城を出て尾張に走り**織田信秀**に頼る。**美作守直保**(直康)の法名は宗勘居士。称号は前作州太守忠道宗勘大居士と云う。笠井系図直時の條に曰く

天文16年丁未(1547)冬11月22日大桑城主土岐美濃守頼芸公與稻葉山城主齊藤秀龍俄及合戦秀龍以大軍押寄大桑城直康公御従弟新藤治忠直公始直時治時以下五千騎馳集大桑日夜散火花相戦敵大軍味方小勢也不運直康公討死有直時亦於此討死同二十三日入夜忠直公以下主従七騎落行云々



土岐頼芸の墓(谷汲村:法雲寺) 土岐氏の旧臣稲葉一鉄が頼芸を岐礼(谷汲村)に迎え、頼芸は此处で病死したと伝えられている。

■所在地: 岐阜県山県市大桑	■城郭様式: 山城	■別名: なし	■築城主: 逸見義重か?
■城主: 逸見氏、大桑土岐氏	■築城年代: 承久の乱(1221)以後か?		
■遺構: 曲輪跡、石積み、井戸跡	■標高: 407.5m	■比高差: 367.5~330.5m	

大桑城古城山(金鶏山)を南方より望む。標高406m。中央のこんもりと高く突出した部分に主郭がある。今でこそ静かな農村地帯だが、かつて大桑城の麓には城下町が形成されていたという。

■歴史  
築城年代は定かではないが、承久の乱(1221)以後、地頭として逸見義重が関東から大桑に入部している。5代目守護土岐頼世(頼忠)の子頼名が大桑氏を名乗ったという。また7代目守護持益が守護に任せられる前に大桑菅野に住んだという。さらに8代目守護成頼の二男で9代目守護政房の弟にあたる定頼が明応4年(1495)の船田の乱、同5年(1496)の城田寺の戦いが相次ぐ頃、大桑城を改修したという。永正6年(1509)頃から天文4年(1535)にかけて、守護館が革手から福光、枝広、大桑へ移ったらしい。この時期の大桑城主は土岐頼武・頼純父子とも土岐頼芸ともいわれているがよくわからない。その後、天文12年(1543)に大桑城で戦いがあり、天文21年(1552)前後には、守護土岐頼芸が追放され、戦後処理を斎藤道三が行っているようである。

■現在  
主郭跡や、曲輪跡などの遺構が残り、登山道が整備されている。



織田信秀木像(名古屋市中区:萬松寺藏)

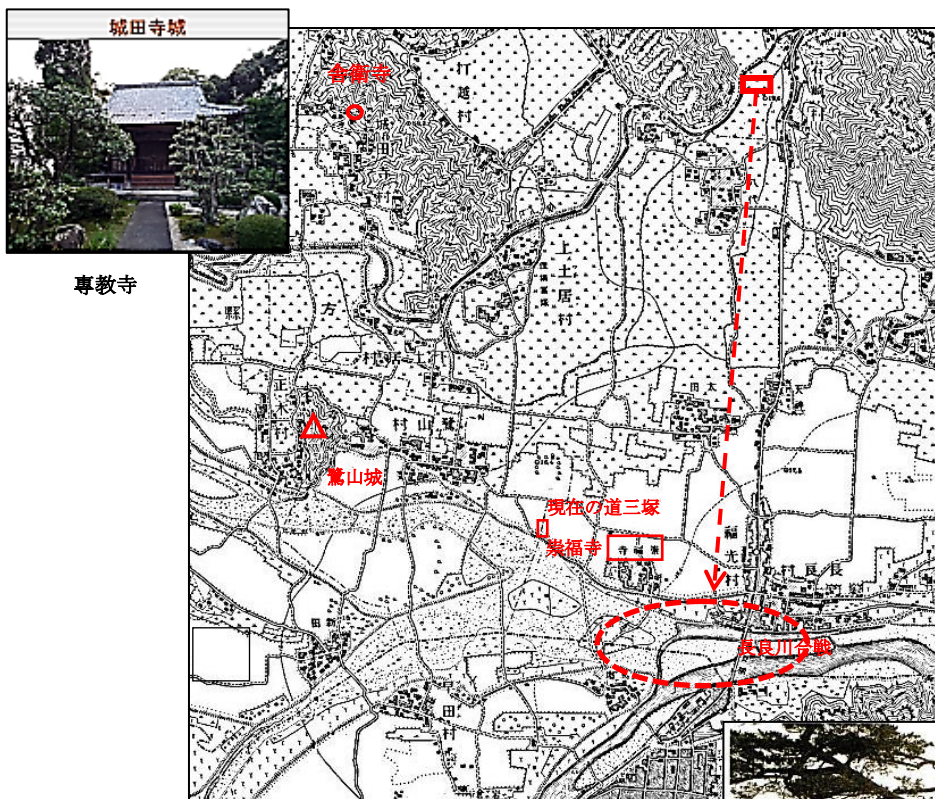
織田信長の父(那古屋・古渡・末森城主)

其の後、天文 20 年 (1551) 3 月 10 日新藤治忠直は再び北野城に入る。忠直は大桑落城後、一時方県郡木田に居ったが、齊藤道三が迎えに来て北野城に帰らせる。然るに数年成らないのに又もや「弘治の乱」が起こる。即ち齊藤道三と其の子義龍との合戦となり、此の戦いは弘治元年 (1555) 長良川辺に始まり、道三は退いて北野城に籠る。翌 2 年 (1556) 4 月道三は北野を出て再び長良川で戦うが、4 月 20 日敗戦して小牧源太の為に討たれる。

新藤治も又竹腰摂津守尚光と共に戦死し、北野城も此の時、戦火を受ける。

笠井系図治時の條に曰く

仕鷲見美作守直康公父直時於大桑討死後直康公御従弟鷲見新藤治忠直公始治時以下近松新吾迄七騎隨敗軍落居方県郡木田之館經年月天文 20 年 (1551) 春 3 月 10 日忠直公之御供仕入北野城于時弘治元年 (1555) 同 2 年 (1556) 齊藤秀龍興一色義龍及合戦主君於長良川討死有於此切腹仕処近松新吾馳来日重調軍兵勝負可任時之運也從此諫言近松新吾住居以前之屋敷者皆兵火而焼失依建小庵與土民送一生云々



弘治 2 年 (1556) 4 月 18 日齊藤道三は北野を出て鶴山 (打越) に陣を構える



鷲見新藤治尉忠直 (基綱) の墓  
弘治 2 年 (1556) 4 月 20 日卒

長良川合戦 (齊藤道三×齊藤義龍)



金華山より鷲山、崇福寺をのぞむ (岐阜市歴史博物館蔵) 鷲山は道三が館を構えたところである。写真は正徳期から昭和初期のころの絵はがきの一部に加筆したもの。



鷲山城主：齊藤道三の現在の「道三塚」



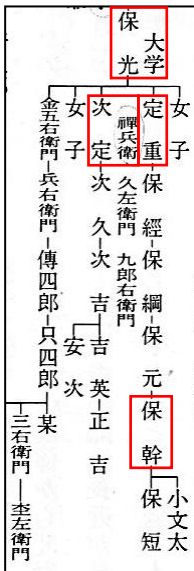
美濃国主：齊藤義龍

注意：齊藤道三は城田寺城に逃げる途中、崇福寺門前で殺されるが、当時の城田寺城は専教寺か舍衛寺か解らない



鷲見直保の弟**大学助保光**は此の戦いに於いて、**一色義龍**に従い**稲葉城**に在りしが、義龍の死後、其の子**龍興**に歴任して美作守と称する。

その後、永禄10年(1567)8月に至り、織田信長が急に**稲葉山**に迫るや、**義興**遂に城を出て船にて長島に退く。大学助(保光)の子、**藤兵衛次定**(二男)は**龍興**に従って長島に到り、更に近江に転戦したが、大学助(保光)及び其の子**定重(長男)**は高富を経て郡上に帰る。



**斎藤龍興**

落合芳雄画

時代 戦国時代  
 生誕 天文17年(1548年)  
 死没 天正元年8月14日(1573年9月10日)  
 改名 喜太郎(幼名)→龍興  
 別名 右兵衛大夫、刑部大輔(通称)、義礼、義輔  
 戒名 瑞雲院龍貞  
 墓所 常在寺(岐阜県岐阜市)



稲葉山(岐阜城) 標高 329m

**織田信長** 凡例

紙本著色織田信長像(狩野元秀画、長興寺蔵)<sup>[1]</sup>

時代 戦国時代 - 安土桃山時代  
 生誕 天文3年5月12日(1534年6月23日)<sup>[2]</sup>  
 天文3年5月28日<sup>[3]</sup>など諸説あり。  
 死没 天正10年6月2日(1582年6月21日)  
 改名 吉法師(幼名)、信長  
 別名 通称:三郎、上総守、上総介、右大将、右府  
 渾名:第六天魔王<sup>[4]</sup>、大うつけ、赤鬼  
 神号 建勳  
 戒名 総見院殿贈大相国一品泰嚴大居士  
 天徳院殿龍嚴雲公大居士<sup>[5]</sup>

定重(保光の子)の数代の孫に**宇太夫保幹**と云う者が居り、**藤井松平家**(三河国碧海郡藤井の領主)「現:愛知県安城市藤井町」の忠周に仕え宝永3年(1706)信州上田に移封後、住みし同地の**鷲見氏の祖**となす。

**藤井松平家**

丸に三つ葉草

本姓	村・清和源氏
家祖	松平利長
種別	武家 華族(子爵)

松平忠周 (まつだいら ただちか) 1661-1728

幕府の老中も務めた松平氏最初の上田藩主

**上田城** (長野県)

日本の城郭

上田城本丸南櫓と東虎口櫓門 (2001年07月撮影)

通称	尼ヶ淵城 真田城
城郭構造	梯郭式平城
天守構造	不明
築城主	真田昌幸
築城年	1583年(天正11年)
主な城主	真田氏、仙石氏、松平氏
廃城年	1874年(明治7年)
遺構	櫓、石垣、土塁、堀
指定文化財	長野県宝(南櫓、北櫓、西櫓) 国の史跡

又鷲見新左衛門の子息：**鷲見新五郎**なる者は、大永年間（1521～1528）土岐頼芸に仕えて各所に転戦して史蹟あるが、其の子孫は詳しく解らない。今稲葉郡城田寺村に**真宗法勝寺**がある。**鷲見姓**にして大永4年（1524）8月**空爾上人**を開山とする。上人は天文10年（1541）6月10日寂、今其の俗名を詳しく言えないけれど、言い伝えによれば当時の武士と伝える。上人或いは**新五郎**の後身なるべきか、後の証を待つ。

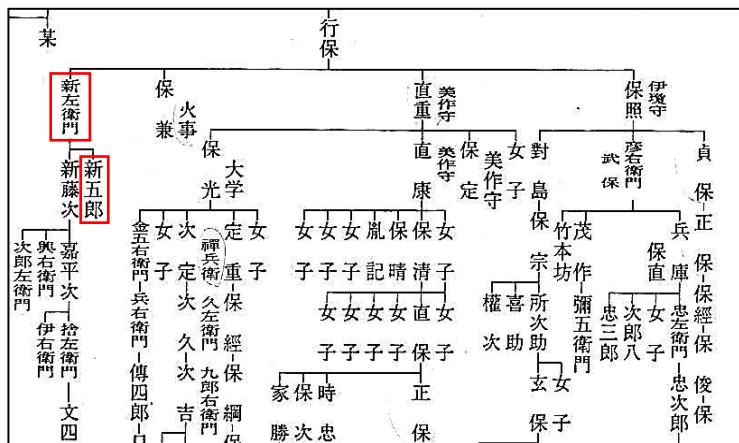


※：城田寺山瀬の7軒の鷲見家は菩提寺が常国寺である。  
 常国寺（岐阜市城田寺 1140）☎058-233-0793：臨濟宗妙心寺派

※城田寺小坂（法勝寺付近）の鷲見家は法勝寺からの一族



法勝寺：浄土真宗本願寺派



法勝寺（岐阜市城田寺 2792）☎058-232-7935

## 第7節 慶長の乱と鷲見氏

元龜 (1570~1573)・天正 (1573~1592) の戦国時代が去った後、美濃に於ける大事変は言うまでも無く、「関ヶ原合戦」である。鷲見氏の末流にして此の合戦に参加する者あるが、之を略説して此の記事を終わりとす。同合戦に関係した者は次の5人である。

鷲見五郎兵衛直保

鷲見猪右衛門正保

鷲見久左衛門 (藤兵衛) 次久

鷲見忠左衛門保義

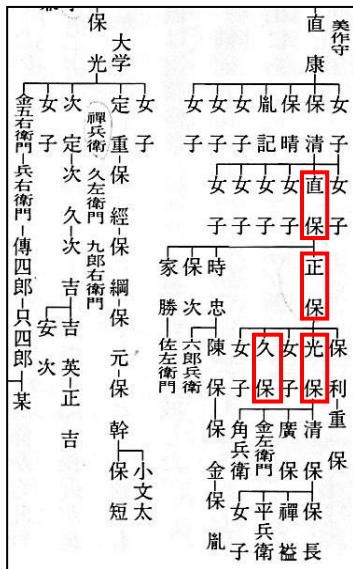
鷲見喜平次

天文16年(1547)大桑城に戦死した鷲見美作守直保の孫に**五郎兵衛直保**なる者が居る、初め山県郡高富町に居るが、池田信輝及び輝政に歴任して天正の末、参州(三河)吉田城(愛知県豊橋市今橋町)住む。慶長5年(1600)関ヶ原の合戦が起きると、輝政に従って先ず**岐阜城**を攻めて織田秀信を降ろし、進んで関ヶ原に到る。

役後、播州姫路に移り**千余石**を領する。慶長18年(1613)輝政が死亡後は、池田忠継、忠雄に歴任して備前岡山に居るが、寛永9年(1632)池田光仲に従って鳥取に到り、更に伯州(鳥取県)米子に移り寛永10年(1633)11月29日死亡する。

法名は正禅院三要道意居士と云う。直保の後は代々米子に居ったが数代の後は、鳥取に移住する。同地の**鷲見氏の祖**である。





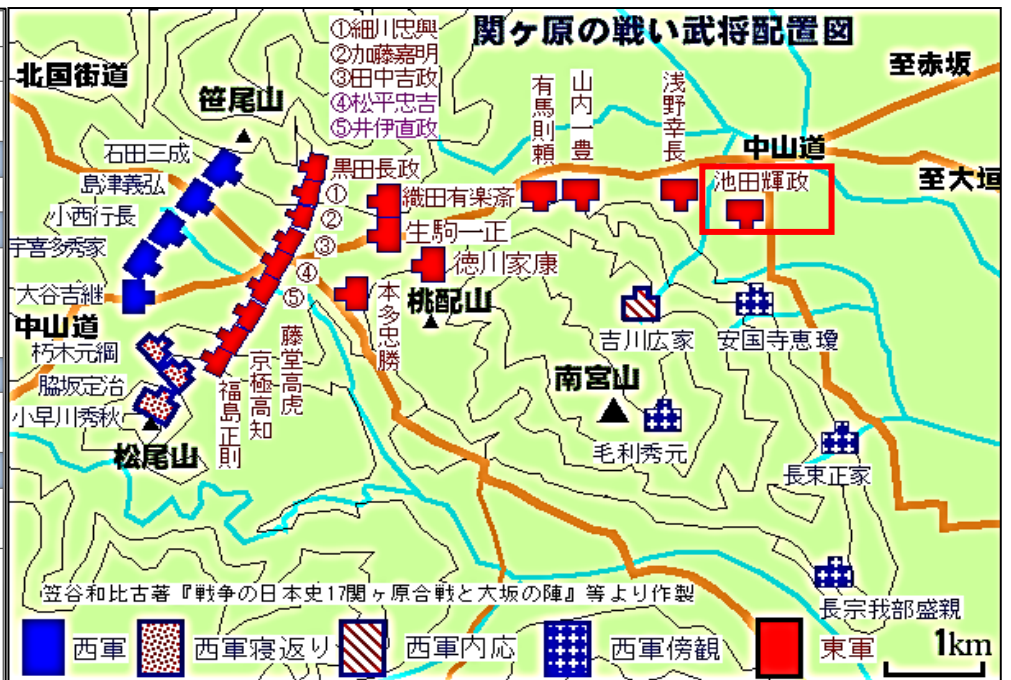
驚見五郎兵衛直保は池田輝政に従い関ヶ原合戦の前哨戦の8月22日(米野の戦い)23日(岐阜城の戦い)で織田秀信を攻撃する。秀信は池田輝政らの説得で自刃しないで、降伏下山して上加納の淨泉坊(現：円徳寺)へ入る。此処で秀信は剃髪して合戦終結後に高野山へ向かう。



織田秀信

時代	安土桃山時代 - 江戸時代初期
生誕	天正8年(1580年)
死没	慶長10年5月8日(1605年6月24日)
改名	三法師(幼名)、秀信
別名	三郎、岐阜中納言(通称)
戒名	大善院圭巖松貞
霊名	ベト口
墓所	和歌山県 高野山五之室谷(光台院境内) 和歌山県 橋本市向副国道371号線高野方面道沿い

年月日	慶長5年9月15日(1600年10月21日)
場所	美濃国関ヶ原
結果	東軍の勝利 石田三成、小西行長、安国寺惠瓊らの斬首
交戦勢力	
東軍	西軍
指揮官	
徳川家康 ● 徳川秀忠 ● 結城秀康 ●	毛利輝元 ● 石田三成 ● 宇喜多秀家 ● 上杉景勝 ●
戦力	
70,000~104,000(諸説あり)	80,000以上(諸説あり)
損害	
戦死者3000人(諸説あり)	戦死者5000人(諸説あり)
関ヶ原の戦い	
会津 - 伏見城 - 田辺城 - 白石城 - 浅井囃 - 木曾川 - 合渡川 - 河田木曾川渡河 - 米野 - 竹ヶ鼻城 - 岐阜城 - 八幡城 - 上田 - 大津城 - 慶長出羽 - 石垣原 - 杭瀬川 - 関ヶ原 - 岩崎城 - 松川	



時代	安土桃山時代から江戸時代前期
生誕	永禄7年12月29日(1565年1月31日)
死没	慶長18年1月25日(1613年3月16日)



時代	江戸時代前期
生誕	慶長7年10月28日(1602年12月11日)
死没	寛永9年4月3日(1632年5月21日)



時代	江戸時代前期
生誕	寛永7年6月18日(1630年7月27日)
死没	元禄6年7月7日(1693年8月8日)

五郎兵衛直保の長子で山県郡高富の家の跡目相続する者を**猪右衛門正保**と云う。慶長 5 年 (1600) 関ヶ原合戦に当たり、**小早川秀秋**に従って戦功あり。同年秀秋に従い**備前岡山**に到り **350 石**を領する。 其の目録に曰く

知行方目録

- 1 : 式百石            備前邑久郡須恵村之内            (現在 : 岡山県瀬戸内市長船町須恵)
  - 1 : 百五十石        美作眞島郡江川並神代村        (現在 : 岡山県真庭市江川及び井原市神代)
- 合計三百五十石

右令扶助訖全可領知者也

慶長五年 (1600) 霜月十一日            秀秋 書判

鷲見猪右衛門どの



時代	安土桃山時代
生誕	天正10年(1582年)
死没	慶長7年10月18日(1602年12月1日)
改名	木下辰之助(幼名)→秀俊→羽柴秀俊→小早川秀秋→秀詮
別名	通称:金吾 <sup>[1]</sup> 、金吾中納言、筑前中納言、岡山中納言
戒名	瑞雲院秀嚴日詮
墓所	瑞雲寺(岡山県岡山市)
官位	従三位左衛門督、参議、権中納言
主君	豊臣秀吉→秀頼→徳川家康
藩	岡山藩主
氏族	木下氏→羽柴氏(豊臣氏)→小早川氏
父母	父:木下家定、母:杉原家次の娘 養父:豊臣秀吉→小早川隆景
兄弟	木下勝俊、木下利房、木下延俊、木下俊定、小早川秀秋、木下秀規
妻	正室:毛利輝元養女(宍戸元秀女)
子	羽柴秀行?

然るに慶長 7 年 (1602) に**秀秋**死亡するが嗣子が無く、家が断絶すれば正保は一時高富に帰り、**正保**は兵学を好む、次の文書がある。曰く

廣見廻世界之兵家之位正法人未識譬不辨之我出似尋日月之光昔前従已来有  
兵用之法言名号而被守傳而今勤処何然如学猿猴三人明爰以学覚同末学云々  
窃于朝鍛夕鍊而案兵の当之法在前忽而都在心闇之希明道処新有廣々道且而  
不学者誰続見監本望処天上天下唯我独尊我兵法之知識也

春風桃季花開日

秋露梧桐葉落時

慶長十五年 (1610) 三月吉日            天下一新免武蔵守

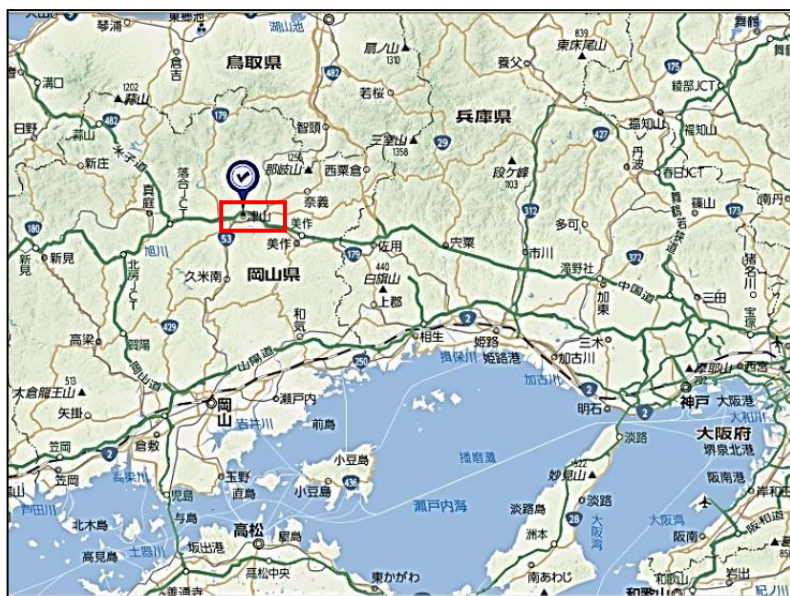
藤原義貞 書判

鷲見伊右衛門殿参

正保は其の後、作州津山に到り、森左近太夫忠政に仕え 200 石を領す。正保元年（1644）正月 20 日病を得て、正保 4 年（1647）3 月に禄を三男次郎左衛門に譲り高富に帰り、慶安 5 年（1652）4 月 25 日に死亡する。

法名は金性院英玉快雄禪定門と云う。墓碑は廣巖寺に在る。

参考：高富村の鷲見氏と岐阜市曾我屋の鷲見氏は直保の長子猪右衛門正保の末裔なりと伝える。





日本の城郭

### 津山城

(岡山県)



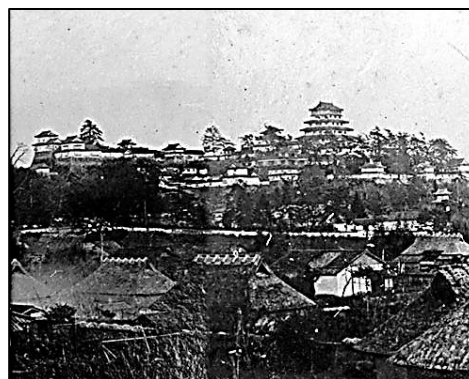
備中櫓 (2005.3.19落成式当日)

通称	鶴山城
城郭構造	梯郭式平山城
天守構造	独立式層塔型4重5階(非現存)
築城主	山名忠政
築城年	嘉吉年間(1441年~1444年)
主な改修者	森忠政
主な城主	山名氏、森氏、松平氏
廃城年	明治6年(1873年)
遺構	石垣、堀
指定文化財	国の史跡
再建造物	備中櫓、堀
位置	北緯35度3分45.97秒 東経134度0分17.83秒

森忠政の木像と銅像



時代	安土桃山時代 - 江戸時代初期
生誕	元龜元年(1570年)
死没	寛永11年7月7日(1634年7月31日)
改名	せん・仙千代・仙千代丸・千丸(幼名) 長重、一重、忠重、忠政
別名	羽柴右近
戒名	本源院殿前作衆国主羽村中郎将先翁宗進 大居士
墓所	京都府大徳寺三玄院・津山本源寺
官位	従五位下右近丞、従四位下侍従 従四位上左近衛権中將
藩	信濃川中島藩主→美作津山藩主
氏族	森氏
父母	父:森可成 母:えい(妙向尼、林通安の娘)
兄弟	可隆、長可、成利(蘭丸) 長隆、長氏、忠政 うめ(木下勝俊正室)、碧松院(関成政正室)
妻	正室:手永(中川清秀の娘) <sup>□</sup> 継室:岩(名古屋山三郎妹・豊臣秀長義女) 側室:お竹(山内之豊の娘)
子	重政、虎松、忠広 於松(池田長幸正室)、黒(森正信室) 菊(池田忠継室→鳥居忠恒正室) 宮(四條殿、池田長幸継室) 郷(関成次正室)、法光院(本多忠義正室) 養子:長継



在り日の津山城 (撮影明治6~7年:松平国忠)

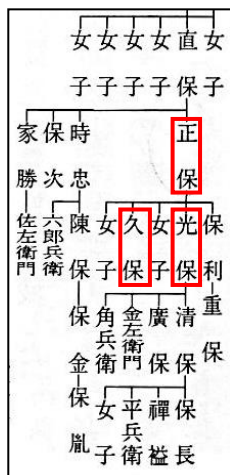
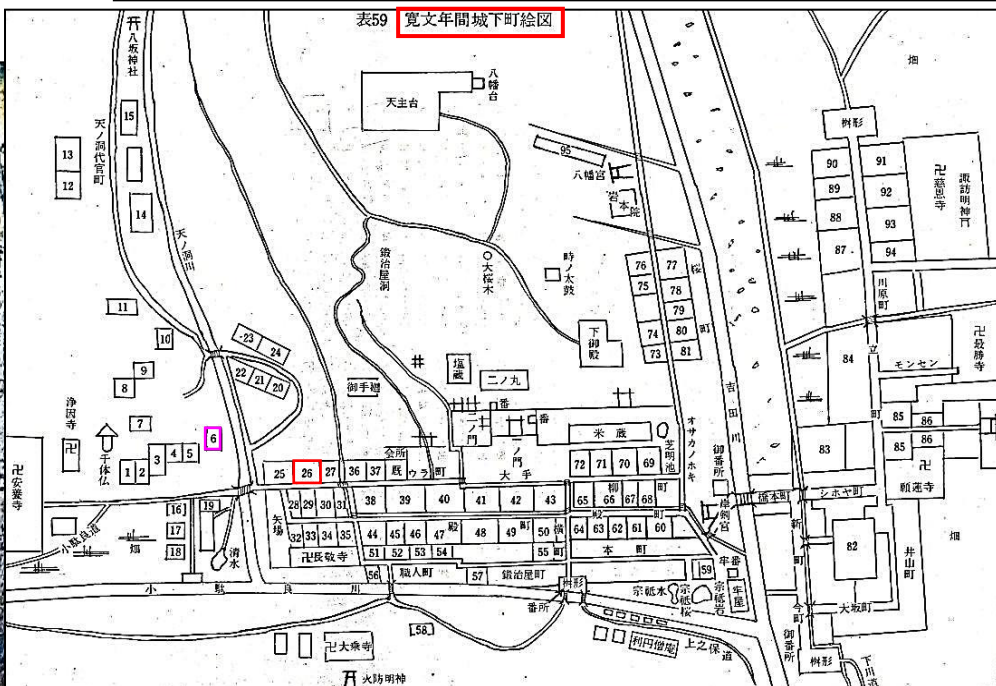
正保の嗣子で高富に居る者を**善右衛門光保**と云い、以後高富に住みし、又正保の末子に**八右衛門久保**が居り、大坪流の馬術に優れ、慶安3年(1650)より郡上郡八幡城主遠藤備前守常友に仕えて、多くは江戸に住む。明暦3年(1657)には江戸の大火に遭遇し尽力するが、元禄5年(1692)遠藤家断絶して以後は、高富に帰り元禄15年(1702)9月19日に死亡する。法名は久昌院智源意足居士と云い廣厳寺に葬る。



郡上八幡城

●郡上藩歴代藩主

代数	名前	生没年	就任期間	官位	官職	父親	母親	法名
初代	遠藤慶隆	1550-1633	1601-1632	従五位下	但馬守	遠藤盛数	東常慶娘	乗性深心院
	遠藤慶勝	1588-1615		従五位下	長門守	遠藤慶隆	三木良頼娘	明心大神院
2代	遠藤慶利	1609-1646	1632-1646	従五位下	但馬守	三木直綱	遠藤慶隆娘	至誠院兼雲
3代	遠藤常友	1628-1675	1646-1675	従五位下	備前守	遠藤慶利	板倉重宗娘	常敬院素信
4代	遠藤常春	1667-1689	1676-1689	従五位下	右衛門佐	遠藤常友	戸田氏信娘	恵正院素教
5代	遠藤常久	1686-1692	1689-1692	従五位下		遠藤常春	側室某氏	本了院素道



●遠藤常友の家臣抜粋(『郡上藩限帳』、『郡上八幡町史』所収)

石高	役職	氏名
2,500	常友実弟	遠藤大助常昭
1,300	常友実弟	山田金兵衛常紀
200	郡奉行	遠藤金左衛門・武光伝左衛門
200	目付	粥川半兵衛
100	目付	野田九右衛門
150	間番役二十人扶持	澤部治部左衛門
100	奥家老	宮田兵右衛門・豊田源五兵衛
150	馬乗り	三浦四方助
150	馬医者	鷲見八右衛門
	~御馬廻~	

7	6	5	4	3	2	1
三嶋	鷲見	波辺	中嶋	野治	山田	金子
藤左衛門	右門八	勘左衛門	勘十太夫	左兵衛	仁右衛門	専右衛門
31	30	29	28	27	26	25
遠藤	武光	遠藤	池戸	餌取	鷲見	遠藤
十郎	伝左	七郎	作右	六右	八右	与市
右衛門	左衛門	右衛門	右衛門	右衛門	右衛門	右衛門

※ 寛文年間(1661-1673)の城下町絵図に26番の鷲見八右衛門(150石の馬医者)の屋敷が解る。6番の鷲見右門八は一族と思われる。

慶長 5 年 (1600) 池田輝政等の岐阜城を攻めるや、其の城主織田秀信の為に奮戦した**鷲見久左衛門**と云う者が居り、之は永禄 10 年 (1567) 齊藤龍興と共に勢州 (伊勢国) 長島に走り、後近江に転戦した**鷲見藤兵衛次定**の嗣子である。久左衛門は**又藤兵衛次久**と云い、慶長 5 年 (1600) 8 月 15 日岐阜城没落の後には信州に到り、小諸城主仙石秀久に仕え、佐久間郡に於いて 700 貫を領する。秀久の文書に曰く



**小諸城**  
(長野県)

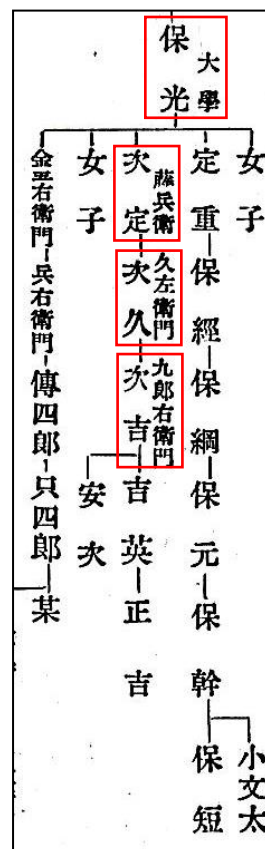
日本の城郭

三ノ門

通称	酔月城 穴城 白鶴城 鍋蓋城
城郭構造	平山城
天守構造	不明3重
築城主	武田信玄
築城年	1554年(天文23年)
主な改修者	仙石秀久
主な城主	武田氏、仙石氏、牧野氏など
廃城年	不明
遺構	大手門、三之門、天守台、石

為加増申附知行分事  
 式百貫文小宮山組之内  
 右令支配了当物成より遣之條全可令領知仍如件  
 慶長九年 (1604) 九月六日  
 秀久 書判  
 鷲見藤兵衛殿 (次久)

時代	戦国時代 - 江戸時代初期
生誕	1552年2月20日(天文21年1月26日)
死没	1614年6月13日(慶長19年5月6日)
別名	千石秀久、秀康、盛長(別名) 権兵衛(通称)
戒名	円覚院殿室管道樹大禅定門
墓所	長野県上田市の芳泉寺 長野県佐久市岩村田の西念寺
官位	従五位下、越前守
主君	齋藤龍興→織田信長→豊臣秀吉 →徳川家康→秀忠
藩	信濃小諸藩主
氏族	仙石氏、萩原氏
父母	父:仙石久盛、養父:萩原国清
兄弟	仙石久勝、仙石秀利
妻	正室:野々村幸成の娘・本陽院 側室:竹村新兵衛の娘・慶宗院
子	久忠、秀範、忠政、政能、政直、久隆 娘(古田重嗣室)、娘(大久保某室) 娘(藤堂高清室)、娘(森某室)





次久の嗣子を**九郎右衛門次吉**と云う。仙石秀久及び忠政に歴任して禄高 **330 貫**である。  
秀久及び忠政の文書に曰く

### 為知行遣分之事

百貫文 平尾之内

現在：長野県佐久市平尾（旧：信州北佐久郡平尾村）

右令支配畢全可領知者也

慶長十一年（1606）正月十五日

秀久 書判

鷲見九郎右衛門殿

### 被下知行分事

百三拾貫文 平賀之内

現在：長野県佐久市平賀（旧：信州南佐久郡平賀村）

右令支配畢全可領知者也

慶長十八年（1613）九月十六日

秀久 書判

鷲見九郎右衛門殿

### 為支配知行百石

令扶助了 全可領知者也

寛永二年（1625）十二月朔日

忠政 書判

鷲見九郎右衛門殿

**次吉**は寛文 5 年（1665）9 月 14 日信州上田で死亡する。年は 78 歳で法名は心叟康安禅定門と云う。上田にある**鷲見久左衛門の祖**である。



時代	安土桃山時代 - 江戸時代前期
生誕	天正6年(1578年)
死没	寛永5年4月20日(1628年5月23日)
改名	左門(幼名)、久政、忠政
別名	三左衛門(通称)
戒名	法光院殿天庵宗智大居士 <sup>[1]</sup>
墓所	東禅寺(東京都品川区)
官位	従五位下・兵部大輔
主君	徳川家康→秀忠
藩	信濃国小諸藩主→信濃国上田藩主
氏族	仙石氏
父母	父:仙石秀久、母:野々村幸成の娘(本陽院)
兄弟	久忠、秀範、 <b>忠政</b> 、政能、政直、久隆
妻	正室:小堀政徳の娘
子	政俊、政則、政勝、娘(桑山一玄室)、娘(水野勝忠室)



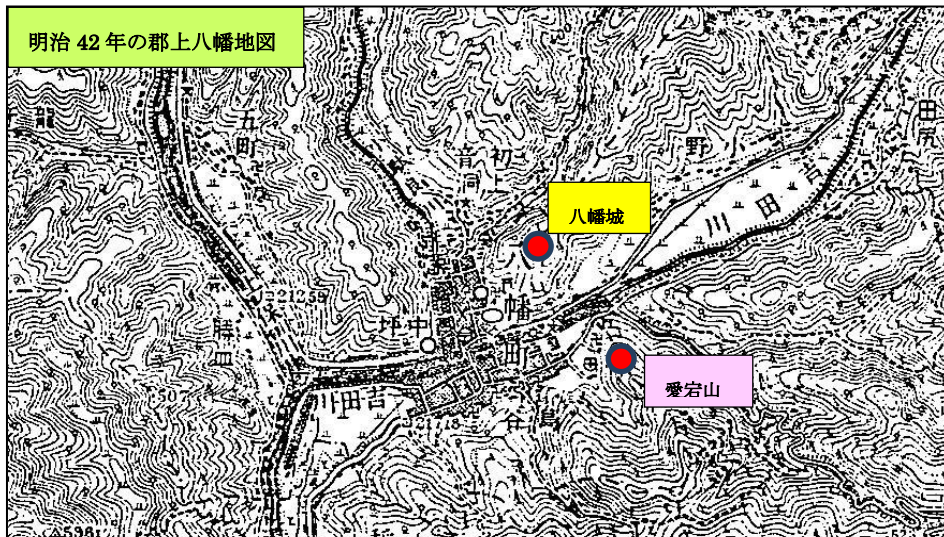
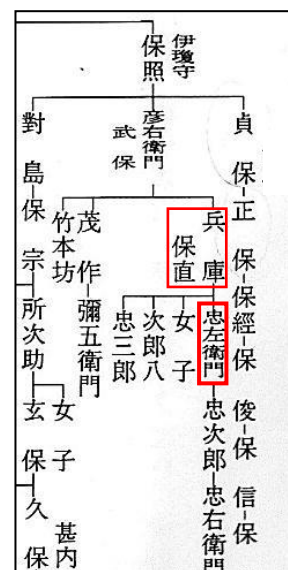
仙石忠政夫妻像(部分、上田市立博物館蔵、狩野常信筆)夫人の三十三回忌(承応3年(1654年))に建長寺回春庵に納めたもの

鷲見兵庫の子**鷲見忠左衛門保義**は遠藤慶隆に仕えて家老職であるが、天正 16 年 (1588) 遠藤氏が加茂郡に移封せられた時、之に従う。其の後慶長 5 年 (1600) に「**関ヶ原合戦**」が起こるや、慶隆は東軍に応じて旧領地の八幡城の回復を計り、稲葉氏と合戦する。9 月 3 日に**稲葉貞通**が犬山より帰陣し、急に赤谷山に居る遠藤慶隆の軍を襲う。忠左衛門等が奮戦したが遂に討死し、慶隆を身を以って逃げさせるのを得たる。其の後、寛文 12 年 (1672) 慶隆の孫の常女が一碑を愛宕山の古戦場に建て、其の霊を弔う。銘に曰く

遠藤左馬助殿・稲葉右京亮殿關此地之時討死

	左馬助殿 勇士	右京亮殿 勇士
五雄殺活自臨時	遠藤 長助	稲葉佐兵衛討取
血濺梵天堅勝冥	<b>鷲見 忠左衛門</b>	粥川太郎兵衛討取
一戦即成帰剣下	粥川五郎左衛門	原十兵衛討取
倒騎鉄馬上須弥	粥川 小十郎	稲葉忠次郎討取
	餌取 作助	山住太郎兵衛討取

于時寛文十二壬子年 (1672) 七月 日令孫欽  
立靈石塔命山野修砦殉奉祝五道利勝明王封神三世山関梅山



愛宕山に在る「五人塚」東軍：遠藤慶隆の部下



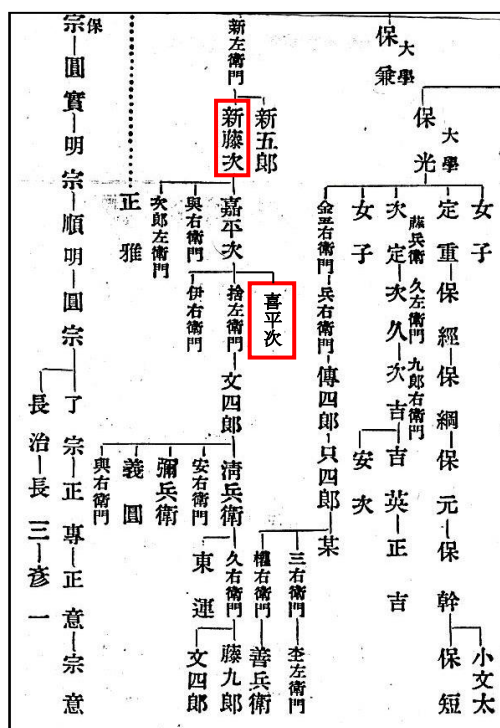
郡上市八幡町の愛宕山全景 (写真右端は弘法堂・左端は愛宕神社) 現：愛宕公園

鷲見忠左衛門の子孫は代々向鷲見に住み、同地の鷲見の祖と成る。

慶長 5 年 (1600) 8 月、郡上八幡城に於ける**稲葉右京太夫**は西軍に応じたので、東軍に投じた**遠藤左馬助・金森出雲・同宗貞**等は八幡城を襲う。

此の時、稲葉氏の為に守城した者に**鷲見喜平次**と云う者が居る。

之は弘治 2 年 (1556) 4 月長良川に戦死した**鷲見新藤治**の孫で、乱後稲葉氏は豊後 (大分県) に移り、**喜平次**は所領の**本巢郡神海**に帰る。喜平次数代の孫に上総国 (千葉県) **武射郡本須賀村**に到り、医業をするものが在り、同村の**鷲見氏の祖**である。



●八幡城の稲葉家配置 (『遠藤旧記』・『大和村史』所収)

本丸	稲葉土佐
二ノ丸	片桐知法・求軒権蔵主 (町奉行・城番)
二ノ曲輪	林惣右衛門・渋谷弥十郎・遠藤勝吉・村瀬善右衛門・佐口嘉右衛門・柴崎甚右衛門・片岡長右衛門・三木長兵衛・渡辺十兵衛 中村太郎右衛門・稲葉藤左衛門・稲葉八郎・石神養兵衛・堀九助・寺沢十左衛門・宇野兵内・伊藤又左衛門
桜町枿形	岡部大膳・稲葉九兵衛
沓部口	箕浦源助・川尻権平
鷲見口	鷲見喜平太
坂本口	大口市左衛門・後藤勘左衛門・加納長助・高田半兵衛・渡辺源太郎

※高鷲村史では稲葉氏の為に守城した者に**鷲見喜平太**となっているが？ (鷲見忠左衛門の従弟となっている)

## 第8節 鷺見氏と神社寺院

(1) 郷社八幡神社 岐阜県郡上郡口明方村字小野鎮座 (現：郡上市八幡町小野1)

応神天皇、天照太神、岡衆女神、仁徳天皇、菅原道真を祭る。

鷺見祖藤原頼保、鷺狩りの節勸請せしものなり、以前は山上に在りしが、永禄2年(1559)遠藤盛数八幡城築城の際、現地に遷せりと云う。明治6年2月14日九小区郷社と定められ、40年8月同所天満神社、西山神明神社合併、41年2月饌(供物)幣(御幣)供進指定。45年5月若宮神社、水神社合併境内二社。創建は承久2年(1220)と伝えられる。「**小野天満宮**」とも言われ、寛保元年(1741)に郡上藩の領地であった越前大野を流れる真名川で、梅の一枝を持った菅原道真公の霊像の白石が見つかり、金森頼錦が八幡神社の境内に社殿を建てて祀った。



八幡神社：小野天満宮



菅原道真公霊像

(2) 大鷺白山神社 岐阜県郡上郡高鷺村鎮座 (現：郡上市高鷺町正ヶ洞：高鷺町大鷺字下畑184)

伊弉諾尊、伊弉册尊、菊理姫命を祭る。永暦元年(1160)大内藤原氏此地に來り、鷺見殿と云う。社領2石2斗余寄進せり、鷺見氏滅亡の後には社殿大破するが、享保3年(1718)7月再興す、明治41年9月村社瓢(蛭)ヶ野白山神社、下谷白山社、前田白山神社及境内姫神社(天鈿女命)稲荷神社(倉稻魂神)合併、元洞神社と云うのを此の時白山神社と改める。



大鷺白山神社と位置図



### 由緒由来

養老年中泰澄大師白山登山の際当村に暫時逗留ありて則ち別当社を建立すと云ふ。天暦年中大内藤原政法と云ふ者鷺見の郷に一城を築き芥見の庄一郷の主と為り、鷺見殿と号す。右領主より社領として高二石二斗余寄付あり。その後天正年中兵乱に鷺見一族滅亡に依り当社も廃頽す。享保村年七月十六日本社及拝殿を際堂し、村社と崇敬す。明治四十一年九月字瓢ヶ野村社白山神社字下谷村社白山神社、字前田村社白山神社、及境内社姫神社稲荷神社を合併す。当社天洞神社と称せしが、合併と同時に白山神社と改称す。

(3) 鷺見白山神社 岐阜県郡上郡高鷺村鎮座 (現：郡上市高鷺町鷺見字会津 1347-1)

伊弉諾尊、伊弉冊尊、菊理姫命を祭る。嘉応3年(1171)山口才三郎長瀧白山神社分霊奉祀、貞享(1684~1687)頃、現地に社殿造営、明治42年6月無格社蒲田日枝神社(大山咋神)水上稻荷神社(倉稻魂命)を合併する。

由緒由来

正応三年当村山口才三郎と云ふ者同郡長瀧村長瀧寺より白山神社の分霊を遷し、貞享九年迄自宅に祀りしが、同年村方一同信仰に依り現今の如に社殿を建設し、村社として崇敬す。



鷺見白山神社と位置図(敬願寺の西側)

(4) 為真白山神社 岐阜県郡上郡上保村為真鎮座 (現：郡上市白鳥町為真 1184) Tel0575-82-6969

伊弉諾尊、伊弉冊尊、菊理姫命を祭る。鷺見九郎右衛門神像を奉安すると云う。



為真白山神社と位置図

(5) 鶴遊山 長善寺 浄土真宗本願寺派 岐阜県郡上郡高鷲村所在

(現：郡上市高鷲町大鷲 241) TEL0575-72-5707)

初長瀧寺末無元寺、鷲見頼保の建立する処なりしが、其の後鷲見保吉は親鸞に帰依し長善寺と改める。



長善寺と位置図



1本の木に白と赤の花が咲く「源平桃」



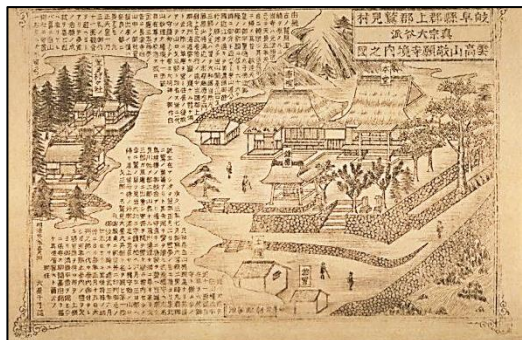
長善寺の紫陽花

(6) 雲高山 敬願寺 真宗大谷派 岐阜県郡上郡高鷲村所在

(現：郡上市高鷲町鷲見 1357-1) TEL0575-72-6326

初山口才三郎開基、後大家太郎左衛門は蓮如に帰依し建立すると云う。

敬願寺と位置図



雲高山敬願寺境内之図 (明治時代)



(7) 榎谷寺 真宗大谷派

岐阜県大野郡榎谷所在

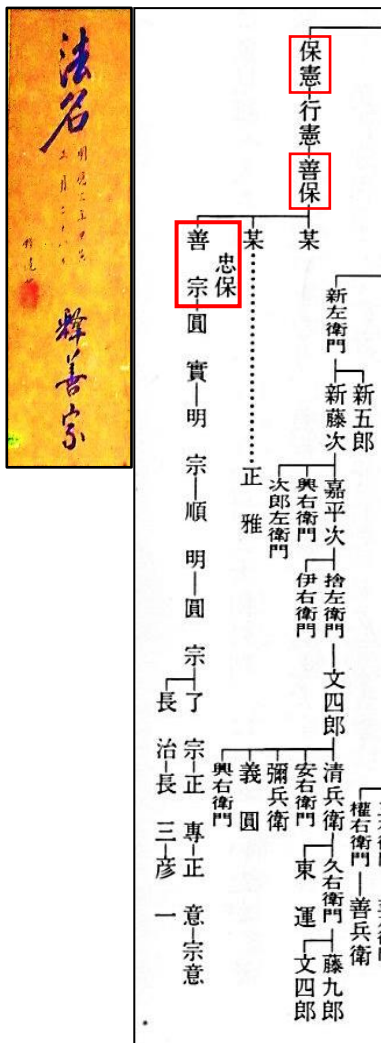
(現：岐阜県高山市清見町榎谷 865) TEL0576-69-2128

榎谷は鷲見藤四郎保憲の開発した地にして、其の孫善保の三男善宗、榎谷寺を開基すると云う。



榎谷寺と位置図

榎谷寺の枝垂れ桜(樹齢400年・樹高10m)



開創：文明5年(1473) ・開基：善宗 ・住職：19世 大榎明

郡上の武士鷲見彦次郎は、文明3年(1471)越前吉崎に赴いて本願寺8世蓮如上人に帰依し、善宗の法名と六字名号を授与され、榎谷に道場を構えた。

善宗(後に円実と改名)は文明17年(1485)方便法身尊像を、又親鸞聖人御影を、いずれも飛騨の門徒として初めて授与された。

寿像を頂くと、夏は団扇で風を送り、冬は火鉢を置いてまるで生身に仕えるように給仕したと伝えられている。

このほか南北朝時代の「御伝鈔」の古写本や蓮如上人・9世実如上人着用の五条袈裟、青磁の香炉等も授与されている。

善宗は越中赤尾の道宗・荘川村牧ヶ野唯乗と共に三大坊主と呼ばれた。

正(照)蓮寺が内ヶ島為氏に焼かれて断絶していた間には、本山への取次ぎを行い、了心寺(山口町)、東等寺(冬頭町)、頓乗寺(萩原町)は、「善宗下」であった。

16世紀末の白山噴火のため耕地が荒れ、その間宝物を照蓮寺に預けて一時美濃へ移転していたと伝える。

毎年上人の命日にあたる旧暦の3月25日に蓮如忌が勤まり、多数の参詣がある。

(8) 雲黄山 大智寺・臨濟宗妙心寺派 岐阜県山県郡山県村北野所在

(現：岐阜市山県北野字北沖 668-1) TEL058-229-1532

明応 9 年 (1500) 5 月北野城主**鷲見美作守保重**禅法に帰依して廢寺を再興し、雲黄山大智寺と号し、悟溪八哲の一人玉浦を請じて開山と為す、境内及び山林並びに永代寺領 18 石 8 斗を寄進する。境内 16 院の塔頭あり、住僧を以て輪番せり、寛永 (1624~1644) の初め脇坂主水正高 20 石外 1 石 1 斗並びに扶持方二人分を永代寄付し、慶安 (1648~1652) 年中岡田将監代官の時、寺領 18 石 8 斗は公儀高の外なる旨上申せり、其の後**徳川三代将軍**より御代々の御朱印 18 石 8 斗の許状を受け、住職**了堂**の時輪番を廢し独住職となして中興する。



岐阜県美濃名譽図誌 (明治時代)



大智寺表門



樹齡 700 年の大桧 (県天然記念佛)



徳川家の家紋 (三つ葉葵) を取り付けた中門



大智寺の庭





(9) 津島神社・天満宮・白鬚社・観音堂 岐阜県山県郡山県村北野城跡所在 (岐阜市山県北野)  
 北野城の四隅にあって氏神と為りしが、弘治2年(1556)城没落の後は村民にて之を祭る。



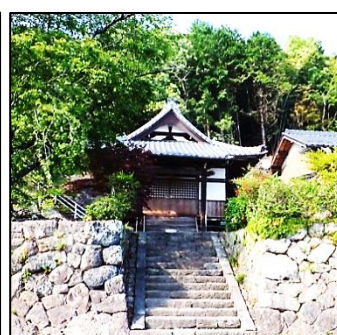
津島神社



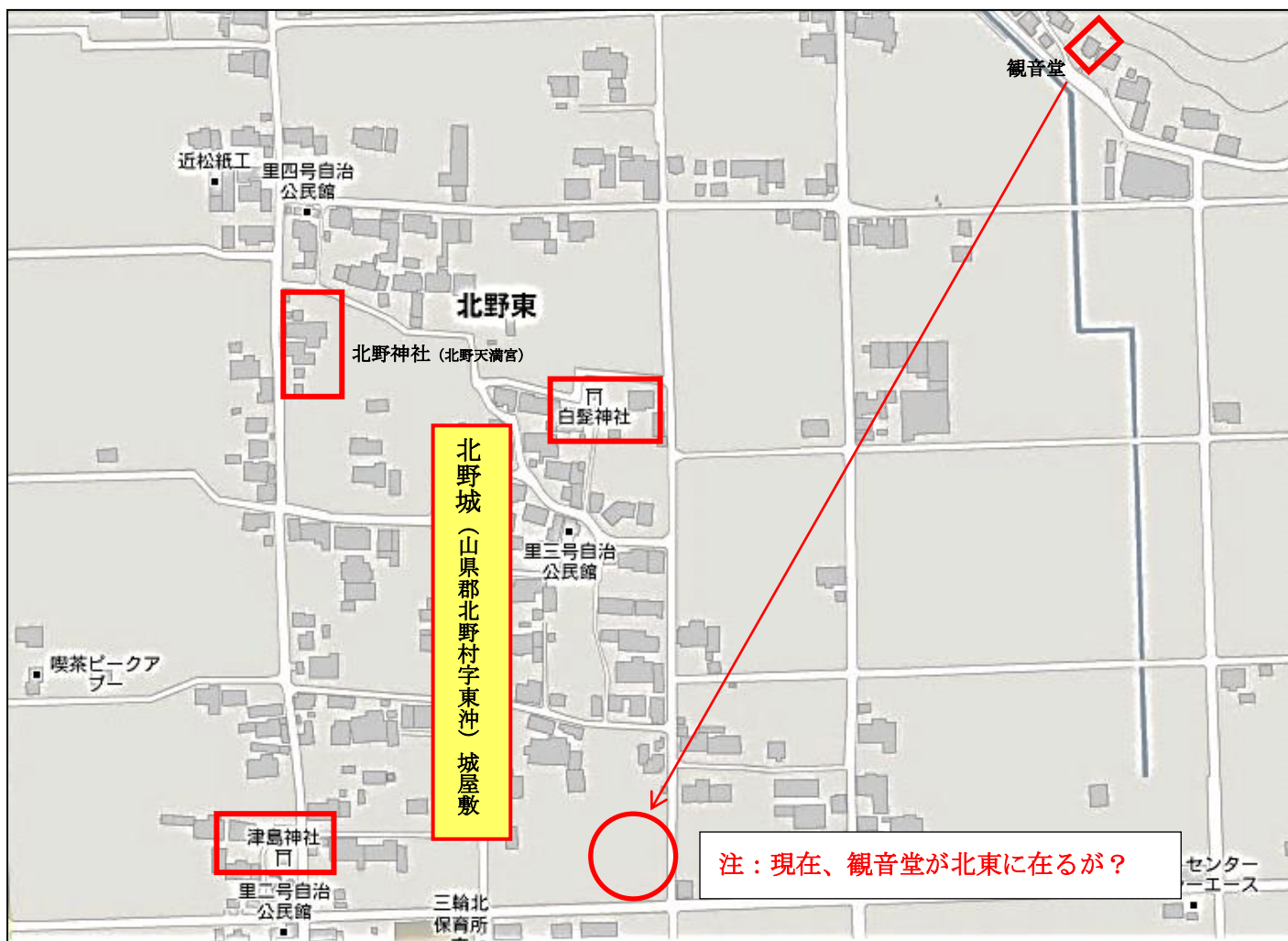
北野神社 (天満宮)



白鬚神社



観音堂



(10) 法雲山 廣嚴寺 臨濟宗妙心寺派 岐阜県山県郡高富町森所在

(現：山県市高富町 69) Tel.0581-22-1782

大永 (1521~1528) 初年鷲見美作守直保一字を草創し、廣嚴庵と称し母を以って開基とする。母は大永 8 年 (1528) 2 月 1 日卒し、法号を廣嚴院殿松岳理貞大姉と云う、其の後庵主良龜首座其師大龍寺淳光禪師を請じて開山とし、其末寺と為り廣嚴寺と改める。明治 41 年 5 月 20 日本山直末と為る。



廣嚴寺表門と鷲見保重令室 (松野)「廣嚴院殿松岳理貞大姉」の墓



廣嚴寺と鷲見神社の位置図



廣嚴寺から権現山 (廣嚴寺所有) を望む

鷲見神社



当時高富には都の地名にちなんだものが多く、都の衣笠山に似ている南方の山を衣笠山 (現・権現山) と呼ばれていた。又西方には都の嵯峨山があり、下を流れている鳥羽川がある。北方には京ヶ洞があり、東方には北野があつて小京都の観がある。

鷲見神社

由来

「祭神郡上太郎武藏権守藤原朝臣鷲見頼保公」

永禄年中 (一一六〇) 都は衣笠の地より出でし

藤原頼保公は鷲狩の功により、鷲見の家名と芥見の庄八ヶ村を御賞として天子より賜り、文治元年 (一一八五) 名城鷲見城を築き、永き基を確立されたと伝えられる。代々栄え文明十年 (一四七八) 十世保重公は、郡上より北野城に進出、永正七年 (一五二〇) 斉藤利良の大軍に攻め落とされ自刃、その子保定公は、直保・保光両弟と共に母を伴い当地に遁れ、一門再興祈願の為、伝持せし頼保公の木像を当山頂に祀り、衣笠大権現と名付け一族の守護神となせり。

近年に至り再建され鷲見神社と称した。

鷲見家会

(11) 七社神社

岐阜県山県郡高富井戸尻鎮座 (山県市高富町井戸尻)

文明 (1469~1487) の頃の創立なりと云う。天正 2 年 (1574) 2 月 15 日七柱を合祀し七社の宮と称し鷺見氏、杉山氏等の氏神なりしが、明治 5 年 11 月 28 日村社に列す。



七社神社



七社神社の全景と位置図

鷺見家史跡 終

大正 13 年 11 月 1 日印刷

大正 13 年 11 月 5 日発行

著者兼発行者 鷺見周保

岐阜県山県郡高富町

東京市芝区三田四国町 15 番地

発行所 日本系図学会

編集 平成 24 年 10 月吉日

岐阜市早苗町 4-12 森陽一郎

## おわりに

平成 24 年春から、35 年以上前に高富町役場で取得した戸籍謄本を基本にして、「**鷺見辰右衛門家系図**」を作成する。又先祖の事を知るのに県立及び市立図書館へ何度か足を運び「**高富町史**」を中心に郷土史等で鷺見氏を調べる。

「**鷺見家の歴史書**」としては不十分なために、6 月中旬から著者：**鷺見周保氏**の「**鷺見家史跡**」を現代語に修正しながら調査し、写真・地図・画像等を挿入して解り易く編集する。

9 月初旬には粗完了し、「その他」の参考史料として、鷺見家の追加分を調べ纏めていた 9 月 7 日（金）にパソコンの操作ミスで「**ファイルデータ**」を破損してしまった。

**ハード・デスクにバックアップ**してあったので安心していましたが、これにもミスが有り編集した全てが消却され、今までの苦労が駄目になってしまった。

翌日「**データ復元ソフト**」を購入し専門家をお願いしたが、僅か一部が復元されたが、それ以外は全部消えてしまった。

ショックで胃痙攣と肋間神経痛のような身体の変調があり、翌日から持病である潰瘍性大腸炎の活動期の症状が出る。 罹りつけの病院で薬を調整して貰い、一週間後から再び復元出来た史料を基に思い出しながら再編集を行い、**鷺見周保氏**の「**鷺見家史跡**」だけは不十分な箇所はあるが、10 月の初旬に略完成することが出来た。

注（現在は**個人情報保護法**で容易に戸籍謄本は取得出来ない）

平成 24 年 10 月 7 日（日）

### 正誤表

教願寺 → 敬願寺

瓢ヶ野 → 蛭ヶ野

鷺見加賀丸**倫**人？      **論**人？      どちらが正しいのか解らない。

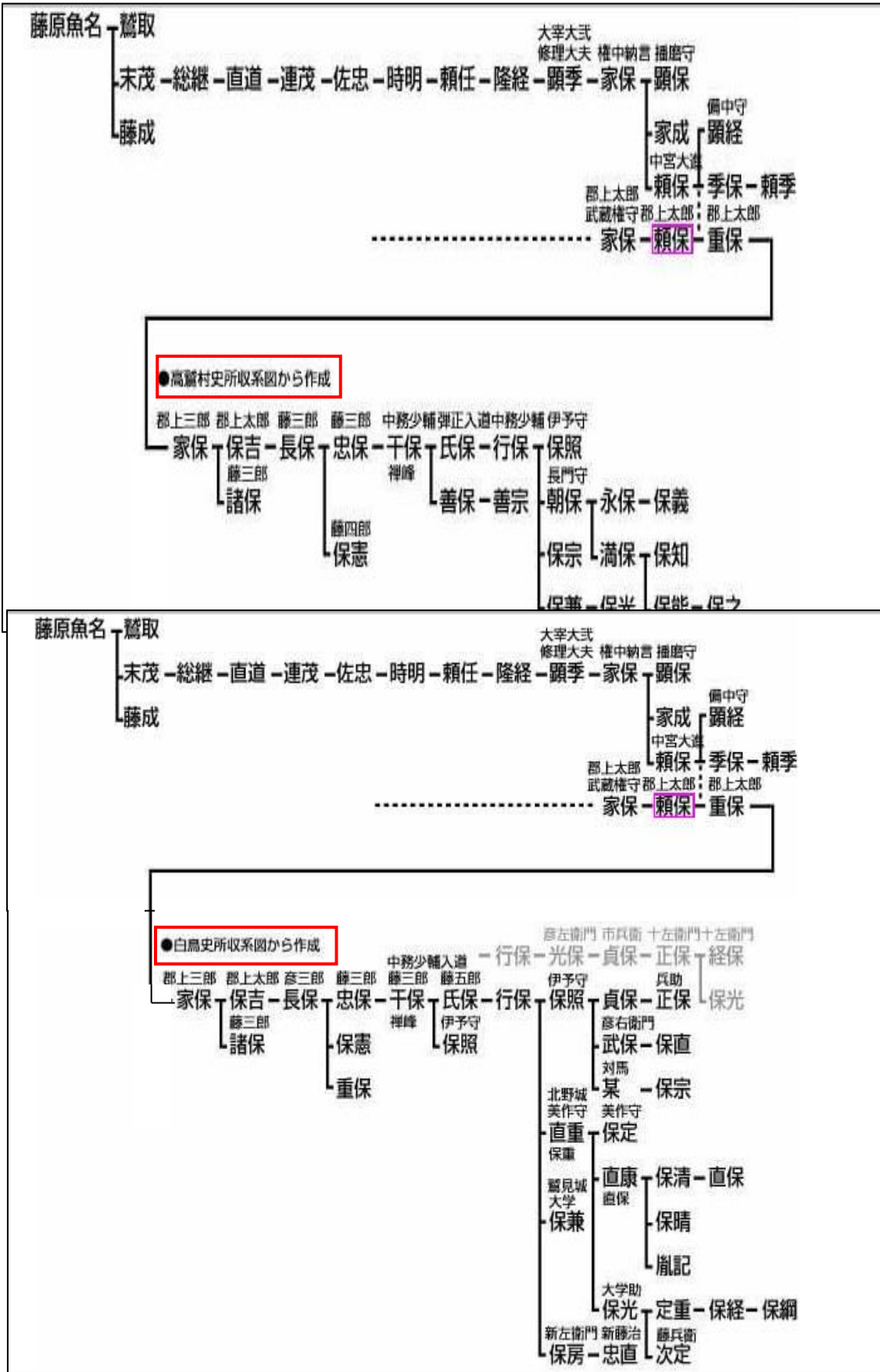
著者：**鷺見周保氏**の「**鷺見家史跡**」と岐阜県の「**市町村史**」が異なっている箇所があるが、著者の文書を変更しないで編集する。

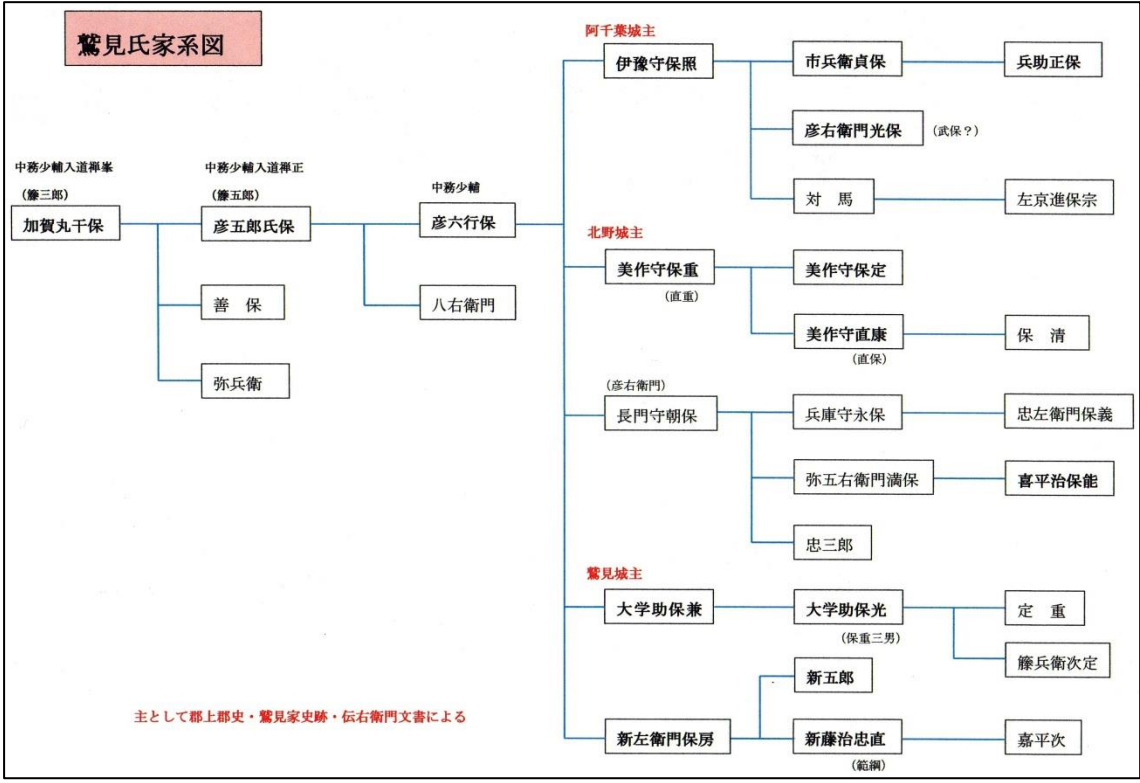
（例）：鷺見氏分脈で記載されていない鷺見新藤次の孫「喜平次」が文書にはあるが、高鷺村史では「喜平治（太）」で鷺見朝保の孫で鷺見喜平治（太）保能と記載されている。（系図の違いから）

※高鷺村史 P149 の文書では「喜平太保能」、P69 の鷺見氏系図では「喜平治保能」と記載してある

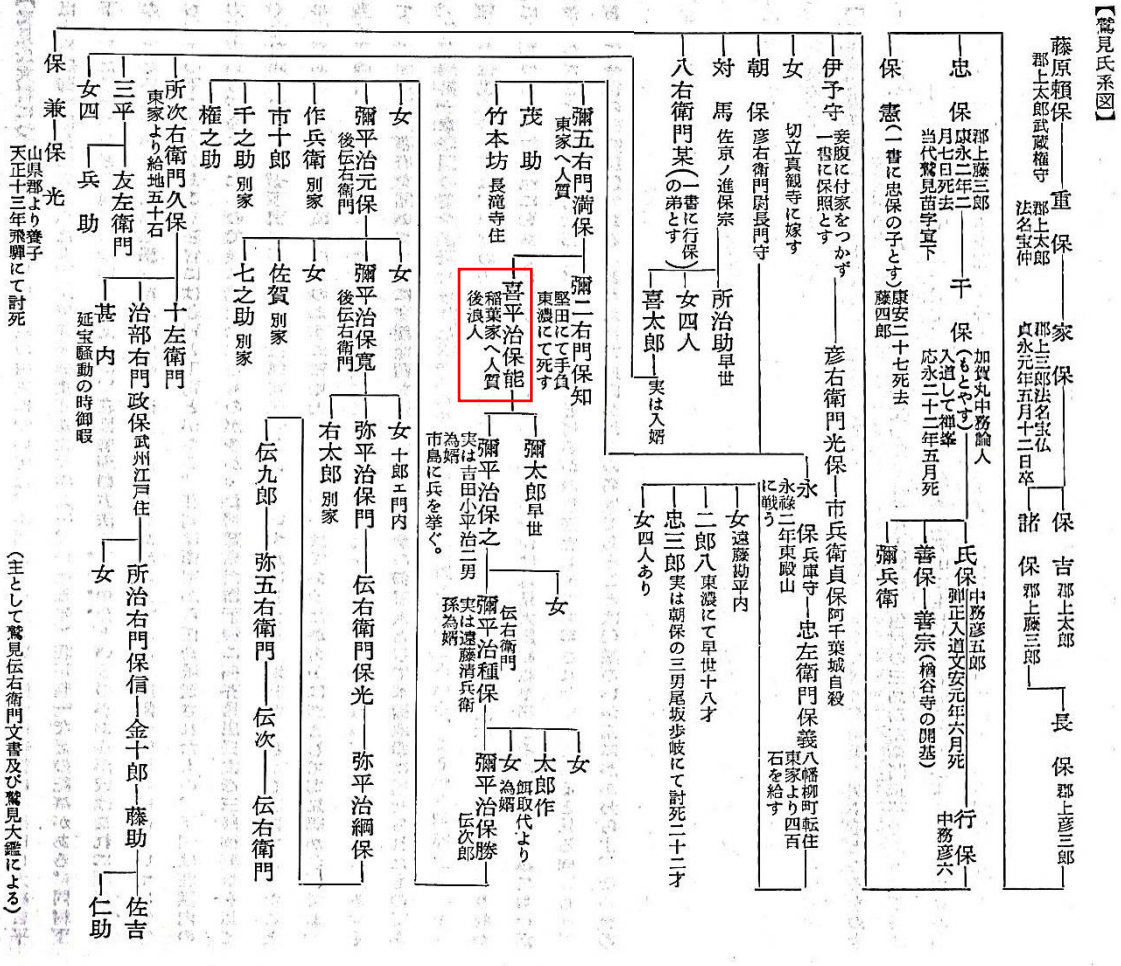
追加史料

岐阜県の各市町村史や鷲見家に関する参考図書調べ纏めてみる。





### 鷲見伝右衛門文書及び鷲見大鑑による



蓮如上人とゆうこく檀谷寺

1998年 6月 8日  
檀谷寺 住職

龍馬山檀谷寺開基 善宗 応永30年(1423年)～明応3年(1494年)

俗称は、鷲見藤三郎保憲より三代彦太郎善保の三男彦治郎某と号す。

文明3年(1471年)4月 蓮如上人江州大津三井寺南別所より越前吉崎に御下向、教化開始  
近隣諸国の諸人 上人の御勸化に靡き、法流を汲む門信徒その数増大す。

同年初秋、彦治郎某、世の無情を悟り初めて吉崎に参詣し、上人に对面、聞法随喜し法名を善宗  
と改め、六字名号を賜り、上人常隨じっ近の御弟子となる。(善宗 49才・上人57才)

以来、越中赤尾の道宗(行徳寺開基)、白川牧ヶ野の唯乗(遊乗寺開基)と共に蓮如上人吉崎在  
住の5年間、お側について教化を受け、後に蓮如の三弟子、三大坊主とも称された。

文明7年(1475年)8月蓮如上人吉崎を去り河内の出口に至り翌年堺の信証院に入り、大阪  
の地に布教の拠点を移し、処々に本願念仏の教えを流布せられた。

当山開基善宗法師、赤尾道宗、牧ヶ野唯乗三人共に老年の後、夫々本国に帰り自行化他・信心  
堅固の同行であり『一日の嗜みは、じん朝の勤行、称名を欠かさず・一月の嗜みは、近き祖師  
聖人(親鸞)の御座所に御礼・一年の嗜みは御本山に参詣する』を実行した。

長亨2年(1488年)春 山科本山参詣のため道宗、唯乗 檀谷の草庵に訪れたが、善宗生憎  
病床にあり、実子円実を名代として山科に参詣させる。 その時に、開山親鸞聖人御影像が  
円実に即刻下付された。(善宗 66才・蓮如 74才)

延徳3年(1491年) 泉州堺に蓮如上人を訪ねた際に 老邁の身として来問の切なることを  
感じられ、上人御自影を授与され「老いの身としてはるばる来問の程もいたわしければ、此の  
影像を某の国に安置して我に对面の代わりにすべし」と言って御下付された。

(善宗 69才・蓮如 77才)

開基善宗は、戦国動乱の世相の時期に蓮如上人に出会い、上人の御教えを身をもって体得し、  
『自信教人信』の道をひたすらに歩み、特に照連寺一時断絶の時代の飛騨真宗の再興に尽力した。

(追記) 尚、当寺においては毎年旧暦3月25日に蓮如上人御正当法要が勤修される。

関連法宝物の主な物

- |                   |                     |
|-------------------|---------------------|
| (1) 六字御名号 (蓮如筆)   | (2) 方便法身尊影 (実如裏書)   |
| (3) 祖師聖人影像 (蓮如裏書) | (4) 蓮如上人寿像 (蓮如裏書)   |
| (5) 御文書(お文) (実如)  | (6) 五条袈裟 二領 (蓮如・実如) |
| (7) 青磁香炉 (蓮如)     | (8) 錦織り御座具 (蓮如)     |
| (9) 金字金泥名号 (蓮如)   | (10) 御伝鈔 (蓮如)       |



## 今後の調査について

編集図書「鷺見家史跡」はインターネットからの写真が多く、異なった写真が挿入してある可能性もあり、今後は神社や寺院などを訪ねて実際の写真を撮るつもりでいる。

又寺院等へお伺いし、所蔵されている品・画像・墓碑等を調べさせて頂き、纏めれば詳細な鷺見家の史料となる。

### (1) 大智寺所蔵

鷺見美作守保重の墓（五輪塔）・書像

鷺見直保（保重の子）の木像

ぎとく ほそみん  
玉 浦宗珉（大徳寺 65 世） 永正 16 年（1519）寂

せつしゅうずいしゅう  
雪 岫瑞秀（大徳寺 75 世） 書像に賛して曰く

※ 大徳寺（京都市北区紫野大徳寺町）  
臨済宗大徳寺派の大本山で龍寶山と号する。



鷺見新左衛門「宗泉居士」墓碑

明治 36 年に承天老師が別に碑建てる

大智寺殿前作州太守天游元光大居士及び殉死 13 士の碑

※三浦承天（じょうてん）宗泉老師（1872~1935）

臨済宗妙心寺派 松島瑞巖寺（宮城県宮城郡松島町松島字町内 91）127 世

妙心 624 世

### (2) 鷺見久太郎宅地に所蔵（富岡村高木）

鷺見美作守保定（前作州太守宝苑瑞玉禅定門）五輪塔

### (3) 廣巖寺所蔵

松野殿（保定・直保の母）法名：廣巖院殿松岳理貞大姉の墓碑及び画像

鷺見猪右衛門正保（直保の孫）金性院英玉快雄禅定門の墓碑

鷺見八右衛門久保（正保の末子）久昌院智源意足居士の墓碑

